

長万部・小樽間における交通モード別の収支予測について

交通モード別の収支予測の見直し

○ 4月のブロック会議で示した函館線（函館・小樽間）旅客流動調査・将来需要予測・収支予測調査の結果について、運行方法の見直しによる収支改善や、地域の実情に応じたバスルートなどを検討し、収支予測の見直しを行った。

（単位：億円）

区 間		初期投資	単年度収支		30年累計 (初期投資含む)
			2030年度	2040年度	
第三セクター鉄道 (長万部・小樽間)	4月報告	191.2	▲ 23.7	▲ 24.3	▲ 926.9
	見直し結果	152.8	▲ 22.8	▲ 23.5	▲ 864.6
	(増 減)	▲ 38.4(削減)	0.9(改善)	0.8(改善)	62.3(改善)
バス運行 (長万部・小樽間) (A)	4月報告	18.3	▲ 2.0	▲ 2.3	▲ 96.0
	見直し結果	22.1	▲ 0.7	▲ 1.0	▲ 70.2
	(増 減)	3.8(増加)	1.3(改善)	1.3(改善)	25.8(改善)
【参考】余市・小樽間 (A-B)	見直し結果	5.7	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 18.1
第三セクター鉄道 + バス運行	4月報告	64.5	▲ 7.4	▲ 8.0	▲ 311.7
	見直し結果	61.8	▲ 5.4	▲ 6.0	▲ 258.2
	(増 減)	▲ 2.7(削減)	2.0(改善)	2.0(改善)	53.5(改善)
第三セクター鉄道 (余市・小樽間)	4月報告	53.0	▲ 6.3	▲ 6.6	▲ 254.8
	見直し結果	45.4	▲ 4.9	▲ 5.3	▲ 206.1
	(増 減)	▲ 7.6(削減)	1.4(改善)	1.3(改善)	48.7(改善)
バス運行 (長万部・余市間) (B)	4月報告	11.5	▲ 1.1	▲ 1.4	▲ 56.9
	見直し結果	16.4	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 52.1
	(増 減)	4.9(増加)	0.6(改善)	0.7(改善)	4.8(改善)

収支予測の見直し内訳 ①

① 第三セクター鉄道運行の場合（長万部～小樽）

※ 運行ダイヤは現行のJRと同等と仮定

（単位：億円）

	初期投資	単年度収支		30年累計 （初期投資を含む）
		2030年度	2040年度	
4月報告	191.2	▲ 23.7	▲ 24.3	▲ 926.9
見直し結果	152.8	▲ 22.8	▲ 23.5	▲ 864.6
（増減）	38.4億円の削減	0.9億円の改善	0.8億円の改善	62.3億円の改善

精査内容（初期投資）

- ・ 予備車両数の見直しによる車両数の減（22両→16両） 【23.3億円削減】
- ・ 大規模補修額の見直し（補修実施箇所の見直し） 【 9.0億円削減】
- ・ JR譲渡資産の精査（JR協議：簿価へ見直し） 【 6.1億円削減】

精査内容（単年度収支 ※2030年度）

- ・ インバウンド等観光客の推計や運賃値上げによる収入増 【1.9億円増収】
- ・ 小樽駅の業務委託等による費用減 【0.5億円支出減】
- ・ 除雪費用の見直しによる費用増 【1.5億円支出増】

収支予測の見直し内訳 ①

② バス運行の場合（長万部～小樽）

（単位：億円）

	初期投資	単年度収支		30年累計 （初期投資を含む）
		2030年度	2040年度	
4月報告	18.3	▲ 2.0	▲ 2.3	▲ 96.0
見直し結果	22.1	▲ 0.7	▲ 1.0	▲ 70.2
（増減）	3.8億円の増加	1.3億円の改善	1.3億円の改善	25.8億円の改善

精査内容（初期投資）

- ・ バス運行体系の見直しによる車両台数の変更（46台→36台）及び車両の見直し（長距離路線をハイデッカーに変更） 【3.2億円増加】
- ・ バスロケーションシステム導入費用 【0.6億円増加】

精査内容（単年度収支 ※2030年度）

- ・ 鉄道からバスへの移行に伴う逸走率の考慮（通学定期5%減、通勤定期・定期外50%減） 【0.7億円減収】
- ・ 国・道補助金の考慮（国補助0.4億円、道補助0.4億円） 【0.8億円増収】
- ・ バス運行体系の見直しによる運行経費削減 【1.2億円支出減】

収支予測の見直し内訳 ②

③ 第三セクター鉄道（余市～小樽）＋バス運行（長万部～余市）の場合】

（単位：億円）

	初期投資（A）	単年度収支（B）		30年累計 （初期投資を含む）
		2030年度	2040年度	
4月報告	64.5	▲ 7.4	▲ 8.0	▲ 311.7
見直し結果	61.8	▲ 5.4	▲ 6.0	▲ 258.2
（増減）	2.7億円の削減	2.0億円の改善	2.0億円の改善	53.5億円の改善

【内訳】・第三セクター鉄道運行の場合（余市～小樽）

（単位：億円）

	初期投資	単年度収支		30年累計 （初期投資を含む）
		2030年度	2040年度	
4月報告	53.0	▲ 6.3	▲ 6.6	▲ 254.8
見直し結果	45.4	▲ 4.9	▲ 5.3	▲ 206.1
（増減）	7.6億円の削減	1.4億円の改善	1.3億円の改善	48.7億円の改善

精査内容（初期投資）

- ・予備車両数の見直しによる車両数の減（8両→6両） 【4.6億円削減】
- ・大規模補修額の見直し（補修実施箇所の見直し） 【0.3億円削減】
- ・JR譲渡資産の精査（JR協議：簿価へ見直し） 【2.7億円削減】

精査内容（単年度収支 ※2030年度）

- ・インバウンド等観光客の推計や運賃値上げによる収入増 【0.8億円増収】
- ・小樽駅の業務委託等による費用減 【0.8億円支出減】
- ・除雪費用の見直しによる費用増 【0.2億円支出増】

・バス運行の場合（長万部～余市）

（単位：億円）

	初期投資（A）	単年度収支（B）		30年累計 （初期投資を含む）
		2030年度	2040年度	
4月報告	11.5	▲ 1.1	▲ 1.4	▲ 56.9
見直し結果	16.4	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 52.1
（増減）	4.9億円の増加	0.6億円の改善	0.7億円の改善	4.8億円の改善

精査内容（初期投資）

- ・バス運行体系の見直しによる車両台数の変更（28台→25台）及び車両の見直し（長距離路線をハイデッカーに変更） 【4.3億円増加】
- ・バスロケーションシステム導入費用 【0.6億円増加】

精査内容（単年度収支 ※2030年度）

- ・鉄道からバスへの移行に伴う逸走率の考慮（通学定期5%減、通勤定期・定期外50%減） 【0.4億円減収】
- ・国・道補助金の考慮（国補助0.4億円、道補助0.4億円） 【0.8億円増収】
- ・バス運行体系の見直しによる経費削減 【0.2億円支出減】